

## 令和元年度（平成 31 年度）文化事業についての評価（まとめ）

	令和元年度	(参考平成 30 年度)
文化施設事業数	235 件	241 件
文化施設事業参加者数	177,003 人	197,378 人
その他文化事業数	7 件	4 件
その他事業参加者数	65,707 人	25,858 人

※主にイベントやプログラムを事業数として計上。

■ 事業評価シート対象事業について

令和元年度事業については、各文化施設実施事業のうち 3 事業ずつを評価対象にした。

また、文化振興計画推進委員会委員による視察評価も実施した。主な委員意見については次頁以降に掲載している。また、視察対象事業については、委員によるコメントを事業評価シートの「評価」欄に記入した。

■ 事業評価シートから

全体として「参加者数・参加率の達成度」が低い傾向にある。多くの事業は前年度の実績などから目標値を設定しているが、全施設利用者数も減少傾向にあることを考えると、個々の事業内容だけではなく、市全体の課題として捉える必要がある。

貸施設の利用率・稼働率の減少も施設によってはみられるが、それ以上に施設主催事業の参加者数減少がみられる。ただし、令和 2 年 3 月は新型コロナウイルス感染症の影響によるところも大きいと考えられる。

また、企画内容が固定化されることで新規性に欠け、新たな参加者獲得につながっていないことも考えられる。事業を「定番」とすることはリピーターの獲得につながる一方で、企画内容に工夫がないと「飽き」につながってしまう。各施設の事業計画の中で、市民のニーズが高い定番の事業に加えて、新たな層へと働きかけることができるような事業をバランスよく実施していくことが望ましいと考える。

■ 次期奈良市文化振興計画について

施設利用者数や事業参加者数の減少については、施設でのサービスや事業が市民のニーズに対応していないことが可能性としてあるため、分析が必要と考える。(仮称)第 2 次奈良市文化振興計画においては、市民が気軽に文化に触れることができる環境を市が整備していくことを明確にしていきたい。

## ＜奈良市文化振興計画推進委員による事業視察＞

### ①なら100ふれあいコンサート 魅惑の低音～チューバの響き～（バリアフリーコンサート）

視察委員：倉橋委員、谷口委員、春田委員、松下委員、山下恭委員

日時・会場：令和2年2月15日（土）13:15～16:10 なら100年会館

関連する計画の項目：②芸術鑑賞等広く市民が文化に接する機会の拡充に関すること

### 本事業が、前項「計画上の項目」の推進に資する事業であるかについての意見

#### （計画に基づいた事業であるかなど）

- ・ あらゆる垣根を越えてハードル低くコンサートの場に触れていただくという目的に照らして、非常にいい事業である。
- ・ 障がいのある人だけが対象ではなく、親子連れなども対象となっており、様々な属性の人が参加しやすいというコンセプトは社会包摂としての意義が高く、計画上妥当かと感じる。

### 事業のあり方についての意見

#### （目標値・指標が妥当性、費用対効果、重点対象設定の妥当性、市民ニーズに対応しているかなど）

- ・ 予算が限られているにも関わらず、なら100年会館内の他の事業(アウトリーチ事業、ウーベルチユールコンサートなど)と連携されており、企画や運営に工夫がされていると感じた。
- ・ 障がい者の方の参加が少ないように思った。来場者数の漸減傾向の理由を検討し、対策を検討する必要がある。

### 本事業の今後についての意見・助言（継続実施の是非、拡充・縮小の必要性、改善点など）

- ・ 費用対効果を意識することはもちろん必要であるが、目的とする意図をいかに達成するか、そのための工夫が最重要である。コンサートだけでなく、前段階にワークショップや、参加型の要素もあると事業として深まり、認知度も高まると思う。
- ・ 市の施設として継続すべき事業だと感じた。年に2度というように、頻度を増やすことで市民にこの事業が定着するとよいと思う。

## ②映像作家 林勇気展「ANIMATION」

視察委員：中川会長、萩原副会長、関根委員、山下里委員、山本委員

日時・会場：令和2年1月12日（日）13:15～14:45 奈良市美術館

関連する計画の項目：②芸術鑑賞等広く市民が文化に接する機会の拡充に関すること

⑧子どもたちの情操を高める文化環境の整備に関すること

### 本事業が、前項「計画上の項目」の推進に資する事業であるかについての意見

#### （計画に基づいた事業であるかなど）

- ・ 作品展の前に開催された子ども向けのワークショップの開催や、子どもたちの作品も展示に取り込まれているなど、関連した事業開催の創意工夫についても評価したい。
- ・ 展覧会自体は良質の現代アート展であった。広い空間を1人のアーティストが使い切るのはハードルが高いことだが、映像という現代のメディアを用いて空間をうまく使い切っていた。

### 事業のあり方についての意見

#### （目標値・指標が妥当性、費用対効果、重点対象設定の妥当性、市民ニーズに対応しているかなど）

- ・ 企画を外部委託するなど、これまでにない新しいチャレンジをしたことについては評価したい。ただこの美術館で、それをすることによって何をどう変化させたいのかというビジョンが見えない。

### 本事業の今後についての意見・助言（継続実施の是非、拡充・縮小の必要性、改善点など）

- ・ 企画、プロデュース等のシステムを明確化していくようにすべきと思う。つまり、今回は依頼したプロデューサーの確かさを評価するが、そのプロデューサーを選定するシステムを確立しないと、行政担当者が変わることで資産が消滅することを危惧する。
- ・ 会場の周辺環境（ポーリング場に隣接など）を考えると音を出す展示やパフォーマンスアーツの発表などにも可能性があるのではないかと考える。従来の市民ギャラリーとしての役割に加え、多様な活用の展開に期待したい。

### ③奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良 2019-2020」北澤潤「You are Me」

視察委員：中川会長、萩原副会長、関根委員、山下里委員、山本委員

日時・会場：令和2年1月12日（日）15:10～16:30 ならまち周辺

関連する計画の項目：①市民の文化に対する意識の高揚に関すること

②芸術鑑賞等広く市民が文化に接する機会の拡充に関すること

④文化の振興と経済の連携に関すること

### 本事業が、前項「計画上の項目」の推進に資する事業であるかについての意見

#### （計画に基づいた事業であるかなど）

- ・ このプロジェクトを「アート」「文化芸術」として捉え、楽しむ市民をどのように増やしていけるかが課題である。展示の意図について通行する人々や商店街サイド（組合員である店舗）が十分に理解していたかどうかは疑問が残る。経済との連携に関しては、その影響を確かめることはできなかった。

### 事業のあり方についての意見

#### （目標値・指標が妥当性、費用対効果、重点対象設定の妥当性、市民ニーズに対応しているかなど）

- ・ 経済との連携について、アートプロジェクトを開催したことによる具体的な経済的効果を提示することで、商店街サイドにとっても自分ごととなり、今後の「協働」関係が生まれると考える。ただ単に場所を提供してもらったという、一方的な「協力」の関係に終らせてはいけない。

### 本事業の今後についての意見・助言（継続実施の是非、拡充・縮小の必要性、改善点など）

- ・ 中心市街地を活用したアートプロジェクトは、まちを訪れる観光客にも波及し、奈良の認知度を高めることが期待できるため、これからも継続した実施が必要である。3年毎の計画にし、長期での計画と成果をみていけるような計画にするべきである。
- ・ 「古都祝奈良」というメインタイトルに「アート」という文言がないため、ストレートに市民に「アートプロジェクト」であることが伝わっているかは疑問に思える。